

2018 年度第 3 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2018 年(平成 30 年)10 月 26 日(木)13:30-16:30
場所	ビッグパレットふくしま 3F 小会議室 2, 3 〒963-0115 福島県郡山市南二丁目 52 番地
出席者	(順不同、敬称略)理事長:祖父江友孝、副理事長:玉腰暁子、三浦克之 理事:岡村智教、栗山進一、若井建志、近藤克則、曾根博仁、片野田耕太、 中山健夫、安田誠史、井上真奈美、尾島俊之、井上茂、小橋元、本庄かおり、 郡山千早 監事:西信雄、横山徹爾 委任状出席者:金子聰、田中純子、松尾恵太郎 学会事務局:喜多村祐里、西野雅子、中川光穂

理事会に先立ち、祖父江理事長より、出席者・委任状提出者を含めて理事・監事全員の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

1. 2018 年度第 2 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
2. 学会登録票改定案、情報提供方法について、委任状出席の多様性(ダイバーシティ)促進委員会の田中委員長に代わって喜多村委員より説明があり、会員情報登録票の改訂案は、「専門分野」の選択肢から[疫学]を抜くことになり、承認された。専門分野は学会誌の査読者を選定する際など学会活動の参考にさせていただく旨、断っておくと良いとの意見があった。また、多くの会員に改訂した登録票に記入いただくため、次期選挙の投票時、強制的に再登録を促すような仕組みを構築することが承認された。
3. COI 規定の見直しについて、COI 委員会の郡山委員長から JE へ投稿する際の COI を国際基準 ICMJE に準拠して、疫学会の COI 規定とは別に、金額の多寡にかかわらず申告すると規定することが提案され、承認された。なお、COI 指針については、修正案を出して、理事会で承認してもらうことになった。また、学術総会での発表についての COI も、今後検討する必要があるのではとの意見があった。
「日本医学会 129 分科会の医学雑誌編集と COI 管理にかかるアンケート調査」への回答をした際に、次の課題が判明したことが報告され、今後、COI 委員会の提案として理事会に提出することになった。
 - 2017 年 3 月に日本医学会 COI 管理ガイドラインの改定が行われており、本学会も対応の有無を確認する必要がある。

- 学術総会の発表について COI が申告されているかの確認をこれまでの総会ではしていないので、確認する必要がある。

(報告) 2018 年度 COI 自己申告内容の確認をし、特に問題はなかった

4. 選挙規定の見直しについて、選挙規定検討委員会の郡山委員長より説明があった。

被選挙権に会費の全納以外に制限をつけるかどうかについて議論があり、4 年以上の会員歴を条件にすることが承認された。なお、会員歴に学生の入会初年度会費無料の期間も含めることになった。

前年度の会費を免除された学生には、これまでどおり選挙権がないことを確認した。

下記の提案があり、承認された。

- 地域区分の確定時期について、細則と内規に齟齬があるので、下記のとおり変更する。

「選挙権者ならびに被選挙権者の所属する地域区分は、選挙が行われる直近の社員総会時点における主たる勤務地によって定める。」

⇒

「選挙権者ならびに被選挙権者が所属する地域区分は主たる勤務地によって定め、確定する期日は、代議員選挙に関する内規によって定める。」

(内規：「地域区分別の代議員候補者定数は、代議員選挙を告示する年の 4 月 30 日における正会員数に概ね 10 人に 1 人の割合を乗じて算出された数(端数切り上げ)とする。」)

- 第 7 条は、選挙の地域区分に関する内容を含むため、(地域区分) という項目を追加し、関連する条文(第 2 条)とともにまとめる。
 - ドント方式で地域区分ごとの選出人数を定める際に、同数となった場合の選出方法を追加する。
 - 第 8 条は(代議員候補者の選任)に含める。
 - 代議員の選出方法を、「代議員選挙に関する内規」によって定めることを明文化する。
 - 理事長候補者の選任について、「理事長選挙申し合わせ事項」によって定めることを明文化する。
5. 各種規程の見直しについて、総務委員会の喜多村委員長から下記のとおり、改訂案の説明があった。

- 謝金規程について、学会員に支払う謝礼はサマーセミナーと明記し、学術総会の謝金については学術総会会長の裁量により定める。金額は提案のとおり非会員の半額とすることが承認された。
- 学術総会規程について以下の議論があり、審議を継続することになった。
 - 演題登録時に、その年度までの会費を全納していることを明記する。
 - 発表者のCOIの確認をすることを明記する。
 - 学術総会会長は理事会に出席することを明記する。
 - 講演集を学術総会終了後に一般公開するかについて。
 - 託児スペース、英語セッション等について明記するかについて。
 - 文言の修正について

下記の審議事項についても、次回に持ち越しとなった。

- 各種規程の公開範囲について
- 「名誉会員の推薦に関する細則」の変更、内規の改訂
- 「入会に関する細則」及び「会費に関する細則」の変更

6. 2018年度事業報告書（案）、収支計算書（予定）について、祖父江理事長から説明があり、承認された。
7. 2019年度事業計画書（案）、予算書（案）について、祖父江理事長から説明があり、承認された。これについて下記の議論があった。
 - 人件費（事務局に専任職員を追加で一人雇用することによる260万円の増額）について
 - 問題ない。
 - 疫学上級専門家申請・登録料（20,000円×200人）について
 - 上級専門家200人の根拠は、代議員約180人より少し多いことを想定している。
 - 専門家は最終的に1,000人の認定を目指している。
 - 上級専門家登録料20,000円について特に異議はなかった。
 - 委員会開催費等について
 - できるだけWebで開催するようにとのことだが、Face to Faceでの開催も必要なので増額できないか。
 - ⇒ 祖父江理事長から、学術総会の初日（1月30日）に、委員会を開催できる場所を確保してもらっているため、そこを利用してもらいたいとの要請があった。

- 学術総会の懇親会費について、科目名の検討が必要ではないかとの意見があった。
8. その他の協議事項について、祖父江理事長から説明があり、下記のとおり承認された。
- 選挙管理委員会委員長の推薦
北村明彦先生（東京都健康長寿医療センター研究所）
 - 第31回学術総会（疫学会創立30周年）会長の推薦
田中 恵太郎先生（佐賀大学）
 - 2019年度第1回理事会の開催
日時：2019年1月30日（水）18：00～20：00
場所：国立がん研究センター セミナールーム1
 - 第3回社員総会（理事会承認事項）
日時：2019年1月31日（木）17：00～18：00
場所：一橋講堂 A 会場
 - 各種委員会の開催
日時：1月30日（水）9:00～17:00
場所：国立がん研究センター セミナールーム1
 - 理事会メール審議（報告）
AMED(日本医療研究開発機構)へ、日本産業衛生学会、日本衛生学会と連名で提案を出すことについて審議 ⇒ 疫学会も連名で提案を出す。

<報告事項>

1. 学会事務局からの報告

喜多村事務局長から下記の報告があった。

- 会費の再請求：メールで依頼（5月）：700人、ゆうちょ銀行払込票再郵送（7月）：570人
- 入会・退会手続き（5月～9月）入会：145人、退会：45人、再入会：4人
- 役員・委員に委嘱状送付（145件）
- メルマガの発行（19件）
- ホームページ更新（5～9月）：事務局からのお知らせ（31件）、関連団体からのお知らせ（34件）、イベントページ等作成
- 理事会メール審議、第3回理事会開催準備
- 委員会活動の支援：Webex 会議開催補助、サマーセミナー実施補助、ニュースレター編集補助、トラベルグラント募集、COI 申告書提出依頼・申告書収集（120人）等

- 関連団体への対応
 - 日本医学会・日本医学会連合
 - 委員変更届（6/29）
日本医学会医学用語委員：祖父江友孝先生 ⇒ 山本精一郎先生
日本医学会医学用語代委員：山本精一郎先生 ⇒ 溝田友里先生
 - 各種アンケート回答
 - 日本医学会医学賞・奨励賞、日本医学会総会奨励賞の推薦
医学賞：津金昌一郎先生（受賞）
奨励賞：近藤尚己先生（受賞）
総会奨励賞：南里明子先生（受賞）
 - 日本臨床疫学会第2回年次学術大会（9/29-30）川村孝先生出席
 - 後援名義使用許可：H30「食育健康サミット」（11/15@日本医師会館）
 - アンケート回答（医学書院、福田商店、UMIN、CMC学会資料センター、医歯薬出版、コンGRES・コンベンション・ビューロー）

- 庶務報告
 - 会員数（2018年10月1日現在）
名誉会員：29名、代議員：178名、普通会員：2,096名（合計：2,303名）
※普通会員のうち2018年入会学生：119名、海外会員：37名（うち学生5名）
 - 年会費納入状況（2018年10月22日現在）
2018年度会費の納入義務のある会員：2,155名
2018年度までの会費納入完了者：1,785名、83%
2年以上の滞納者：46名

2. 各委員会等からの報告

1) 疫学リソース利用促進委員会

岡村委員長から下記のとおり各WGの活動について方向性を確認したとの報告があった。

- 倫理問題検討WG：当初の課題であるゲノム解析と関連する倫理的課題に加えて、現行の倫理指針で社会医学系の視点から改正が必要な点などを検証していく。
- リンケージ基盤推進WG：既存公的統計・疾病登録を用いた研究についてカテゴリー化を行い、個々の内容について疫学会の会員を対象にアンケート調査を行って、改善に向けての要望に優先順位を付けて制度上の問題点を

整理する。

- 既存疫学研究データ資源化・共有・活用 WG：バイオバンクやビッグデータなど既存データ・試料の資源化の動向を踏まえてその利用方法について検討を進める。学術ジャーナルや funding agency からのデータ公開要求に対する学会としての考え方を整理する。

2) 学会等連携推進委員会

曾根委員長に代わって片野田 WG 長から下記の報告があった。

- 10/12 に委員会（Web 会議）を開催し、他学会における共催シンポジウム・セミナーや教育講演の開催促進について議論した。共催を受け付ける窓口をわかりやすくする、また、本学会と同時所属している会員が多い学会では、事実上共催に近いシンポジウム等があるが、できれば、共催であることを表示していただくよう依頼していくことになった。
- 今後開催予定の連携企画：
 - 日本 DOHaD 学会（2019/1/29-30）
「出生コホート研究連携ワークショップ」
 - 日本産業衛生学会（2019/5/23）@第 92 回日本産業衛生学会
連携企画「産業保健の現場からエビデンスを発信しよう！」
- 禁煙推進学術ネットワーク WG
 - 禁煙推進学術ネットワーク定例会議（6/19）参加、ネットワークから加熱式タバコの使用規制に関する声明を送付、タバコ関連企業からの資金による研究について声明等を出すことを検討中。
 - 1 月の学術総会時にシンポジウム「喫煙に関する最近の話題（仮題）」を企画。

3) 広報委員会

中山委員長から下記の報告があった。

- メディア連携 WG は、メンバー内で情報を共有する仕組みを構築し、情報共有の基盤を作成した。マスメディアとの連携のためのマニュアル作成等については検討中。
- 疫学リテラシー普及促進 WG の安田 WG 長から下記の報告があった。
 - <評価指標 2> 「国民の疫学研究に対する理解と信頼の現状把握」について、松田委員が来年 3 月までに実施する、がん予防と医療の領域での一般市民のリテラシー把握調査に、本 WG で、疫学に対する理解と信頼についての質問を作成し盛り込む。
 - <評価指標 3> 「教育課程における疫学の考え方の普及」について、

八谷委員が、日本学術会議生活習慣病対策分科会委員長として、学習指導要領へ疫学の考え方を反映させるための検討を行っているので、この分科会と連携し、本WGからも提案をする。

- ニュースレター52号（編集担当：内藤委員）は予定どおり刊行。

4) JE 編集委員会

委任状出席の松尾委員長に代わって片野田副委員長から下記の報告があった。

- 投稿数は、本年度 280 程度、Accept 率は全体で 18%（日本からの投稿は 33%）
- インパクトファクター(IF)：2.518（2017）、5年 IF：3.318
来年は citable item 数が近年で最大となるため IF が下がる恐れがある。
是非 JE 論文を引用に含めて頂きたい。
- 9月アクセプト分より二段階早期公開の本運用を開始。年内には全ての論文がこの形式に移行予定。
- Paper of the Year 2017 を先行し、清原康介先生の論文に決定。
- Best Reviewers は選考中。
- Special article として、レガシーコホート論文（片野田先生リード）、疫学温故知新シリーズ（近藤尚己先生リード）を進めている。

審議事項として、下記編集委員の交代が提案され、承認された。

- 若井先生、西脇先生が 2 期 6 年にて引退
- 林先生（がん）、道川先生（循環器、環境）、黒谷先生（栄養）、清原先生（循環器、事故・救急）を新 AE 候補として推薦（何れも First authorship 10 論文以上、基準を満たしている）。

5) 国際化推進委員会

井上真奈美委員長から下記の報告があった。

- トラベルグラントは、6 件の応募があり、バングラデシュから 1 人、インドネシアから 1 人の合計 2 人を選考した。
- 日韓セミナーは、片野田委員（世話人）が、2019 年学術総会時（2/1）に、“Big Data Era” をテーマに企画している。
- IEA 西太平洋地域会議は、後藤委員が中心となり、2020 年学術総会事務局と相談しながら、WCE2020 に繋がる企画を検討する予定。
- IEA-WP 地域理事として、地域 HP、メーリングリストを活用した活動を行っている。
- 今後の検討課題として、WCE2020@オーストラリアに向けたトラベルグラントアワードについて、次の理事会で提案させていただきたい。

6) 疫学専門家・人材育成委員会

尾島委員長から下記の報告があった。

● 実施内容：

サマーセミナーの企画・実施(8/26)、「はじめて学ぶやさしい疫学改訂第3版」の発行(9月)、試験作成WG、資格審査WG、疫学専門家・人材育成委員会(8/14)、疫学専門家・人材育成委員会Web会議(10/5)、社会医学系専門医基本プログラム「疫学・医学統計学」(7コマ)e-learning完成(10/18)

● 今後の予定：

疫学教育推進WG会議(11/16)、疫学専門家認定制度に関する規定の理事会での審議(1/30)、日本疫学会企画：「日本疫学会の人材育成」(2/1)、試験問題作成依頼(春)、上級疫学専門家の申請(夏)、疫学専門家の申請(秋)、筆記試験(2/22または2/23/2020@京都)

理事長から、第29回学術総会等で、会員に専門家制度について、また、認定を受けることのメリットを周知していく必要がある、理事の先生方からも必要性について周囲に理解されるよう働きかけてもらいたいとの要請があった。これについて、下記の意見があった。

- 広報の仕方に工夫がいる。ホームページにコンテンツを作成し、理事長から個人名宛にメールを出すのは効果があるのでは。
- 専門家についての広報は、上級専門家の認定者から働きかけてもらうのがよい。

7) 奨励賞選考委員会

下記のとおり奨励賞受賞者の推薦があり、承認された。(敬称略)

- 大塚 礼 (国立長寿医療研究センター)
- 清原 康介 (大妻女子大学)

8) 名誉会員推薦・功労賞受賞者推薦

下記のとおり功労賞受賞者と名誉会員の推薦があり、承認された。(敬称略)

功労賞受賞者：

- 磯 博康 (大阪大学)
- 中村 好一 (自治医科大学)
- 安村 誠司 (福島県立医科大学)

名誉会員

- 中川 秀昭
- 藤田 委由

3. 第 29 回日本疫学会学術総会準備状況について
津金学術総会会長に代わり、井上真奈美理事から下記の報告があった。
 - 1) 演題登録数：口演（日本語 124 題、英語 36 題）、ポスター（日本語 130 題、英語 14 題）。口演発表者を査読により選考中。
 - 2) 外国人参加者のために英語のセッションが重ならないようプログラムを検討中。
 - 3) 1/30 には委員会開催枠を用意している。
 - 事務局で日程調整をすることになった。

4. 第 30 回日本疫学会学術総会準備状況について
中山次期学術総会会長から下記の報告があった。
 - 1) 日程：2020 年 2 月 20 日（木）～2 月 22 日（土）
会場：京都大学百周年時計台記念館
 - 2) 委託業者を公募し、10/19 に締め切った。2 社から応募があり、選定予定。

以上